

【領域 A】美幌峠・屈斜路カルデラトレイル（KCT）関連

委員・団体名	やっていきたい・連携したい取り組み
宮田会長 （観光物産協会）	峠での宿泊事業（雲海・星空）、KCT 体験ツアー、みどりの村での体験事業×KCT 連携、峠と街中を結ぶサイクルツアー、女満別空港発着の二次交通システム整備
伊藤副会長 （商工会議所）	来訪者 100 万人目標をビジョンに明記し、アクションプラン・予算措置を推進
信太委員 （観光物産協会）	KCT 活用ガイドツアー・体験コンテンツ開発、周辺観光資源と連携した周遊型観光
泊り委員 （農業協同組合）	イベント販売会、分野の垣根を越えた PR 発信（会議では「農泊」構想として補足）
田中委員 （TAISHI）	人手不足・インバウンド対応力の強化
滝川委員 （ピーカン企画）	津別事業者との冬シーズンツアー造成、網走との連携日帰り観光、ガイド育成・コンテンツ開発
野口委員 （フォンブラン）	宿泊施設の整備

会議での補足・具体化された話

- ・ 宮田会長より、KCT のどのような取り組みが直接的・間接的な経済効果があるのか検討してほしい
- ・ 小林委員より、冬期の体験型コンテンツとして秀岳荘と協力したスノーシュー・歩くスキーのモニターツアーを今年度・来年度と継続したい、歩くスキー大会の復活に向けてスキー連盟・教育委員会と協力していく
- ・ 滝川委員より、ガイド体制としてボランティアとプロの二極からの脱却、週末ガイドなど多様な体制の模索が課題である
- ・ 信太委員より、KCT の位置付けとして①道東トレイル（国）②3 町協議会（美幌・大空・津別）③美幌町単独の取り組みという 3 層構造で実施するのがベスト、安定的増加とリピーター形成を重視したいがガイド人材不足が課題である、主体運営者・予算確保・専門人材の配置が必要である
- ・ 小林委員より、KCT 利用者の約 4 割は地域外からで、宿泊・温泉・飲食で 1 人当たり 1,000～2,000 円程度の経済効果がある
- ・ 滝川委員より、KCT 自体は毎日実施も可能なポテンシャルがある、旭岳の 4 万人・黒岳の 6 万人と比べて伸びしろがある一方、自然環境への負荷とのバランスを取りながらデータ収集・継続考察が必要
- ・ 原田委員より、冬期ツアー・冬期イベントにガイドを組み込むことでガイド収入が期待できるとし、峠牧場のバックカントリー開放や峠駐車場での宿泊型イベントの検討を提案、「その時間に美幌にしかない体験」（星空・早朝雲海・カルデラトレイル）としてのブランド化を推奨する
- ・ 事務局（午来主幹）より、KCT の経済効果（有料化の可否、宿泊を兼ねたバック提供の予定等）や、集客・ガイド収益につながる仕組みづくりの必要がある、スタディーツアーや探求学習の受け入れにより関係人口・交流人口を増やし、経済効果につなげたい

【領域 B】回遊拠点関連

委員・団体名	やっていきたい・連携したい取り組み
宮田会長 (観光物産協会)	宿泊プランの催行増、SNS での町内食の PR、食堂組合・飲食店と連携した美幌産食材メニュー開発、町内回遊クーポン券、峠・宿泊者を街中へ誘導する仕組みづくり
伊藤副会長 (商工会議所)	飲食フェアの実施、農協との連携による農作物提供と気運醸成、駅観光案内所の総合拠点化、飲食店・宿泊施設・商店街と連携した周遊商品造成、JR・バス・空港との交通連携
小林委員 (観光物産協会)	駅観光案内所を起点とした情報発信・周遊案内の強化、ファットバイク／スノーボード利用者増加施策
円舘委員 (観光物産協会)	光害の影響を知ってもらい星空環境を守ること、道東の観光資源としての星空の価値を高める。

会議での補足・具体化された話

- ・円舘委員より、夜間観光コンテンツ（天体観望会等）や教育分野での連携をパンクチュアル社と今後協議したい、天文施設の建設予定も活用の方で検討
- ・幸田委員より、観光バス内での PR 等、コンテンツと経済的合理性が揃えば町内誘導は可能
- ・小笠原委員より、来訪客属性が不明確なため方向性は検討中だが、交通アクセスの良さは強みであり、通過型から滞在型への転換が課題で、24 時間・48 時間ツアーなど食・トレイルとの連携を検討したい
- ・円舘委員より、キャンプ場やグランピング等の宿泊施設では夜のコンテンツが必要、町内には今後天文施設の建設が予定されており、パンクチュアルと連携して夜間体験の充実や自然環境意識の向上、教育分野での連携を推進したい
- ・幸田委員より、観光バス内での PR 活動は購買行動に直結するとし、観光客は事前に「何をして遊ぶか」「何を食べるか」を調べてルートや時間を決める傾向があるため、食・文化・宿・夜景などの魅力発信が重要、収益・経済波及効果・町の将来像を踏まえた戦略的な再計画が必要
- ・佐久間委員より、パンクチュアルについて「柔らかい会社」「良いと思ったことはガッツと進めていく会社」との印象を持っており、今後さらに関係を深め気軽に相談できる関係になってほしい
- ・奥山委員より、コラボやイベントの依頼は歓迎しており、これまでもモルック大会やキッチンカーの招致（火・金の定休日に合わせ複数回／週）を実施している、広い駐車場も活用可能で、サイクリング協会が峠までのルートとして利用している

【領域 C】 地域資源関連

委員・団体名	やっていきたい・連携したい取り組み
宮田会長 (観光物産協会)	まちづくり会社設立または民間委託によるツアー客誘致、宿泊商品開発、KCT との連携、観光物産協会・商工会議所と飲食店の連携推進の仕組みづくり
伊藤副会長 (商工会議所)	農泊を美幌観光のイメージ戦略の柱に、地域資源活用の体験型観光、地域ブランド化、宿泊・飲食・生産者と連携した滞在型観光商品、農業・酪農・畜産事業者との食・農体験プログラム
信太委員 (観光物産協会)	自然・食・農業・景観・歴史文化を活かした魅力発信の強化
泊り委員 (農業協同組合)	町内飲食店との定期的なコラボ
田中委員 (TAISHI)	新規に美幌町へ関心を持つ人を増やす仕組みづくり
野口委員 (フォンブラン)	事業を一緒に進める関係者・企業の拡大、地域雇用創出

会議での補足・具体化された話

- ・伊藤副会長より、農業を柱とした観光コンテンツ戦略を推進したい旨の補足説明。「強いところに投資する」経営判断として、農村風景・農業を軸に据える考え。JA と商工会議所の連携を具体化して一次産業である農産物を扱っている農家さんとの連携を希望
- ・事務局（午来主幹）より、教育旅行の誘致：道内修学旅行者数（年 14.3 万人）の一部を美幌に呼び込みたい。関係人口・交流人口の拡大を狙い、スタディーツアーや探求学習の受け入れを推進（昨年 の 3 泊 4 日ツアーで経済効果約 50 万円の実績）
- ・宮田会長より、今回のアンケートを通じて連携したい事業・連携できる事業が浮かび上がってきており、今後の戦略ビジョン策定にあたり各委員で連携して進めていきたい
- ・伊藤副会長より、農産品 PR×観光集客のイベント的取り組みで JA と意見が一致しており、一次産業の町であることから農村風景を強みとした戦略や、農業に付随した観光コンテンツを全体の柱とするイメージ戦略が大事である
- ・泊り委員より、JA は物産展への参加やイベント商品の提供、町の収穫感謝祭への参加を行っており、今後は観光客を対象としたイベントへの参加機会を希望する。アスパラ・芋・玉ねぎ等の食材活用を進めたい。一方、食材には期限・旬があるため年間を通じた投資は難しく、期間限定での取り組みを検討する必要がある